

(様式1)

大 学 名	愛知大学	学 問 分 野	学際・複合・新領域
専 攻 等 名	中国研究科中国研究専攻		
拠点のプログラム名称	国際中国学研究センター		
拠点リーダー氏名	加々美光行	所属部局・職	現代中国学部・教授
プログラムの概要	<p>国際中国学研究センター（ICCS）の設立は、現代中国学（Modern Chinese Studies）の学問（ディシプリン）的な共通基盤を世界的規模で確立することを究極目標としている。この目標に向けてICCSは世界10カ国地域の20の大学・研究機関との間に遠隔多方向コミュニケーションシステム（RMCS）を構築することによって研究教育面で密接な国際交流を展開する。中核をなす事業は「二重学位（dual degree、博士学位の同時授与）」制、RMCSと世界規模の現代中国学に関するデータベースの構築である。</p>		
拠点形成の目的・必要性	<p>現代中国学はなお世界共通のグローバルスタンダードを確立していない。即ち一般に米国の現代中国学がもっとも高い水準にあり、日欧のそれがこれに次ぎ、中国の自国研究である現代中国学の水準が一等低いものとみなされているからである。このような傾向は日欧米の発展途上諸国研究に共通する欠陥と言える。現実には文化大革命時期の学問的停滞ののち、改革開放時期に入って23年を経た中国は学問の復興著しく、その自国研究の水準は長足の進歩を遂げ、日欧米の現代中国学を凌駕する勢いを示している。現状の世界の公正を欠いた学問評価基準のありようは、必然的に中国との学問的対話を未熟にし、ひいては中国との相互理解を危うくして安易な「中国脅威論」を生む結果になっている。ICCSはこのような現状を改革するために、日欧米中アジアの現代中国学を一堂に会させる研究・教育の世界的ネットワークを形成し、そのハブステーションとなることを通じて、現代中国学の学問評価の新たなグローバルスタンダードを構築する。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>平成14年度： 世界10カ国地域の20の大学・研究機関と交流協定を締結する作業を進める。協定の内容は、1年任期の訪問学者（visiting fellow）3名の招聘、「二重学位」制とRMCS、データベースの構築、研究会および国際シンポジウムの開催等に渉る。平成15年度： RMCSとデータベース構築のための条件調査と構築作業の完了。訪問学者3名の招聘。海外提携予定校から5名の研究者を招聘して研究合同準備会の開催。9月5つの研究会の発足。翌年開催予定の国際シンポジウムに向けた準備の開始。平成16年度： 10月第1回国際シンポの開催、報告書の発行。自己点検・評価の実施。平成17年度： 研究会の継続、第2回国際シンポの開催、報告書発行、自己点検・評価の実施。平成18年度： 各研究会の最終報告書の作成。第3回国際シンポの開催。全世界に向けた「政策提言」の公表。本拠点プログラムに参加した全メンバーについてFollow-up programを実施。</p>		
教育実施計画	<p>1. 学生募集は国内に限定せず、広く海外に募集を拡大する。2. 提携諸大学・研究機関への1年～1年半の派遣留学を奨励する。3. 留学を希望する学生は入学時点で日文のほか、中文または英文の「博士論文執筆計画書」を提出し、その評価が優れていた場合に提携諸大学・研究機関から選考にふさわしい研究科および指導教授を選択したうえで、留学を承認される。4. 博士後期課程の全期間を通じてICCSと留学先提携大学研究科との双方間でRMCSを駆使して「二重学位」制を実施する。5. 「二重学位」制とはRMCSを用いた「二重論文指導（dual paper instruction）」制と「二重論文審査（dual paper examination）」制からなり、同時にICCSと留学先大学・研究機関との両方の学位取得を可能にするものである。6. 第1期の学生募集は平成15年度12月に開始、入試は平成16年2月に実施、合格発表は3月を予定。</p>		



ICCS (International Center for Chinese Studies)

教育事業

世界規模での学生募集
遠隔多方向講義システム (RMCS) による二重
論文指導体制
留学先大学との合同審査による二重学位制
世界10ヶ国20大学の提携諸大学との交換留学
研究補助員 (R.A) 制

研究事業

訪問教授の招聘
研究会活動
「伝統的中国学と新たな現代中国学構築可能性」
「現代中国とアジア世界平和構築の可能性」
「現代中国とアジア経済圏形成の可能性」
「現代中国とアジア世界の人口生態環境問題」
「中国文化とアジア世界の文化共生可能性」
データベースの構築
国際シンポジウムの開催